



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字 フォトニュース

伊勢湾台風から60年 ～赤十字社の活動を振り返る～

1959年9月26日、我が国の台風史上最大の惨禍をもたらした伊勢湾台風から今年で60年を迎えます。

全国で5千人を超える犠牲者を出し、愛知県では県民の約2割が被災しました。特に高潮による浸水被害が甚大で、地域によっては浸水の解消まで3か月を要し、多くの住民が長期間の避難生活を余儀なくされました。

日本赤十字社では災害発生直後から救護班の派遣を開始し、災害救護所を設けるなど各地で救護活動を展開しました。また、全国では、赤十字ボランティアが義援金の募集や救援物資の輸送などの支援活動を行ったという記録も残っています。

街には貯木場から流出した丸太が散乱



ボートを使用して医療救護活動



テントを張り、災害救護所を設営



校庭は池のようになり、1階部分は浸水



救うことを、 つづける。



※赤十字広報CM

バスによる移動診療所



仮設診療所には多くの住民が訪れた



全国から届く救援物資を運ぶ学生ボランティア



赤十字の災害対策本部となった日赤愛知県支部



赤十字の活動資金にご協力お願いします。

赤十字事業は、みなさまからの活動資金のご協力によって支えられています。
みなさまのご協力をお願いいたします。

